



萌木

2月号



調布市立第七中学校

校長 山田 勝

令和5年2月15日発行

～自尊・立志・感謝～

成長を実感すること

副校長 北地 宏充

令和5年が始まってもう一か月が過ぎ、三学期もあと半分というところまで来ています。三年生は受験真ただ中、二年生は音楽鑑賞教室、一年生はスキー移動教室とイベントが続いています。生徒のみなさんにとってはこの一年間、コロナの関係で行事等の縮小や学校生活での不自由なども味わってきたかと思いますが、「出来ないこと」に縛られるのではなく、「出来ること」にフォーカスして様々な活動を意欲的に取り組み、様々な学びや体験を重ねることができたのではないかと思います。

全校朝礼において、いつもは校長先生からお話をするところですが、今回は私から以下のような話をしました。

どうして勉強するのでしょうか。クラスの誰々に勝つ、親に褒めてもらえる、あるいは希望する高校・大学に入学する、そして夢を叶えるためでしょうか。これらのことは「外側の現実に向かって頑張る」ということです。それも目標という一つのモチベーションとしてはアリだとは思いますが、しかし、そこで少し視点を変えてもらって、勉強することによって「何に気づき成長できたのか」「どんな技術や知識を習得できたのか」など、外を見るのではなく自分の中に問いかけてみてください。解けるようになった問題が1問でもあれば、それはみなさんが進化成長した証です。「外側の世界」に振り回され、学力や能力が「足りない」とネガティブになるのではなく、同じ勉強をするにしても「自分の成長を実感」し、自分自身の内側にある価値ある宝物が今も増え続けている、発展途上な自分を楽しむことを勉強のモチベーションにしてみたいと思います。

学校は各教科の勉強が中心ですが、みなさんはこれまで行事や普段の生活の中で、思いやりの心や周りをリードする力、目の前のことに真摯に取り組む誠実さや集中力など、教科だけでは測れない様々な素晴らしい才能も育てているはずですよ。これらの精神面・心の力についても「こういう場面でこんな行動ができるようになってきた自分スゴイ！」と、自分自身の成長を感じたことを言語化することで、自分をより深く知っていくこともいいと思います。もちろんこれらのことも、誰々と比べたら自分なんて…などと思わず、自分の中で少しでも成長したと感ずることなら、それは伸び代のある素晴らしい才能です。

学校は「自分を知る場所」です。この一年間で獲得した・獲得しつつある素晴らしい才能をもう一度実感し、その才能に出会わせるために頑張ってくれた自分自身に、「ありがとう」と言ってあげてください。

まだ受験が終わっていない三年生も多くいるかと思いますが、この七中に通う中でここまで得たものに自信と誇りをもって本番に臨んでください。

今年度も残り少ないですが、保護者の皆様におかれましてもぜひお子様自身がどれだけ成長できたか、どんな力を身につけられたかにフォーカスして引き続き見守っていただければ幸いです。